

2023 11

ブームから定着の時代へ

凄腕写実 2023

最新世代21人の仕事

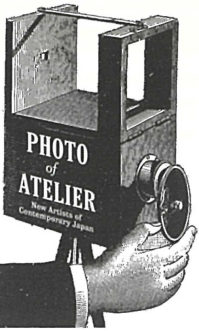
月刊
美術

No.578

Since 1975



富士 手塚雄二



No. 129

Artist

きたがわ・まいこ 1983年埼玉県生まれ。2005年東京藝術大学絵画科油画入学。10年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究室入学。12年東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了。2006年個展「今夜見る夢の話」、07年個展「目覚めぬまま... 一歩（いすれもギャラリー）銀座フォレスト」、08、10年ホールマン画廊（いずれもTAMM Contemporary）、11、13、14、15年個展（泰明画廊）。13年個展（Nikei Fine Art サンガポート）。16年「北川麻衣子デッサン展」秋華洞。20、21、22年「巴里を魅了する和の八人展」、22年「桜満載」MERRY CHERRY BLOSSOM「ほか」ギャラリーためなが。アートフェア出展多数。

Photo by

寫眞 山下武

新・現代日本の作家たち
アトリエ寫眞

北川麻衣子





《花勸諷》 146×112cm パネルにケント紙、ダーマトグラフ

身辺抄

いまから8年前。学部と大学院を合わせて10年間通った東京藝術大学を修了して、制作場所として確保したのがこの一軒家でした。池袋から50分。東武東上線の駅からまっすぐ続く大通り沿い。自宅から自転車で40秒という近さ。持ち主は知り合いの方で、その方の趣味のアトリエ部屋がそのまま制作に使えたので不便を感じることはまったくありませんでした。



ここかしこに草花や水槽を置いているのは、視界の中に動物や植物が入っていると安心するから。植物をきつかけに生きものの形が生まれたり、動物に花が咲いたりという想像が繰り返されて絵の中に登場することもしばしばです。こちらの水槽にはミシシッピニオイガメ、向こう側にはザリガニが隠れています。貝殻や魚の骨、鳥の羽根も見つかるはず。

リトグラフ制作で使われる油性鉛筆のダーマトグラフを、製版ではなく画材として使うようになって随分経ちます。以前はマチェールを強くしようと引つ掻いたり擦ったり試行錯誤しましたが、ダーマトグラフが本来もつ柔らかいトーンを意識するようになってから、艶のある画面になってきたように思います。

実はこの建物は建て替えが決まっています。年内に隣町に引っ越し予定です。画題を壁に書き留めるなど自由に制作させてくれたこの部屋に、本当に感謝しています。

北川麻衣子個展「花勸諷」

会期 10月28日(土)～11月26日(日)

会場 ギャラリーためなが

東京都中央区銀座7-1-4

☎ 03(35573)5368



いまきょうと
新京都

— 古都から千年先へ —

— ギャラリーためなが京都

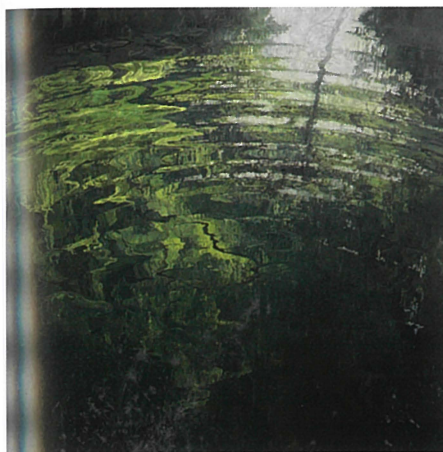
ジャンルを超えて集結した若き才能たち



田口涼一 《Sound of Silver—秋天—》 162×162cm



中比良真子 《The world turns over No.65》 80×117cm



村内昌二 《水の声》 194×194cm

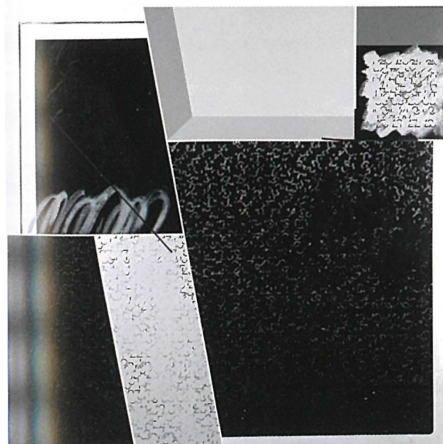


木下友梨香 《ノカンゾウ》 73×61cm

いまきょうと
新京都—古都から千年先へ—

会期 — 11月18日(土)～12月17日(日) 会期中無休
11時～19時

会場 — ギャラリーためなが京都
京都市東山区川端通七条上る上堀詰町265-7
☎075(532)3001



村田奈生子 《Pastroke51》 145.5×145.5cm

日本文化を育んだ古都京都を舞台に、京都にゆかりのある若手作家の新作を発表する企画展「新京都」。昨年の好評を受けて2回目となる今回は、5作家の40余点が出品される。幼少期に見た記憶の中の花や植物をペンキで抽象的に表現する木下友梨香は前回に続いての参加。金属箔と変色技法を駆使する日本画の田口涼一、時間の流れを感じさせる日本画の村内昌二、水面のシリーズなど印象的な風景を油彩で描く中比良真子、モノクロを基調とした抽象画の村田奈生子の4名は初参加となる。千年の都・京都から、さらに千年先へ作品を残すべくジャンルを超えて集結した、若い才能に触れる注目の展覧会。